

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 6月 3日現在

機関番号：32601

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2012

課題番号：20520238

研究課題名（和文）

北アイルランドの詩的想像力——紛争地域における文化・歴史・社会の研究

研究課題名（英文） Poetic Imagination in Northern Ireland: A Study of Culture, History and Society in the Conflict Area

研究代表者

佐藤 亨 (SATO TORU)

青山学院大学・経営学部・教授

研究者番号：40245337

研究成果の概要（和文）：本研究は北アイルランドの文化、歴史、社会について、とくにアイルランドが南北に分断した1921年以降を中心として、広く、かつ深く研究し、北アイルランドの詩的想像力の諸相（文学作品やミューラル）を検証した。その主なる研究成果は『北アイルランドのミューラル』と北アイルランドないしアルスターを代表する詩人論（サミュエル・ファーガソン論とルイ・マクニース論）である。ほかに、プロテスタント地区とカトリック地区の境界であるインターフェイスを取り扱う論文も書き、北アイルランド紛争の現状についても考察した。北アイルランドに特化した本研究は、ポスト・植民地、ナショナリズム、少数派の問題などを抱える、世界中の他の紛争地域の研究にも貢献すると自負する。

研究成果の概要（英文）：Studying the culture, history and society of Northern Ireland widely and deeply especially since the partition of Ireland in 1921, I have made analysis and comments on some aspects of poetic imagination of Northern Ireland such as literary works and murals for five years. I have published books and papers: *Murals in Northern Ireland* and essays on representative poets in Northern Ireland or Ulster (Samuel Ferguson and Louis MacNeice). In addition, I have examined the present situation of the "Troubles" through the paper on the problem of the interfaces, flashpoints between Protestant and Catholic communities, in Northern Ireland. I am sure that my study and research focused on Northern Ireland will give many hints to those on the problems of post-colonialism, nationalism, minorities and so on in other conflict areas in the modern world.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	600,000	180,000	780,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
総計	2,600,000	780,000	3,380,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学

キーワード：紛争、民衆的想像力、芸術の役割、植民地、ネイション

1. 研究開始当初の背景

近年、わが国ではアイルランド研究が盛ん

になり、とくに文学、歴史、美術、音楽の諸分野において数多くの成果が見られる。しかし、その研究のほとんどは、アイルランドが南北に分断される 1921 年前を対象とした研究は別として、アイルランドの南部（1922 年にアイルランド自由国となり、その後、1949 年に英連邦から独立したアイルランド共和国）を対象としており、北部（1922 年に成立した北アイルランド、ないし、北部 9 州のアルスター地方）を含めた研究、ないし北部に特化した研究は、どの分野においても少ないのが現状である。

そうした現状のなか、本研究は、地域的には北アイルランド（ないしアルスター地方）を、時代的には北アイルランドが成立した 1922 年から現在まで、とくに北アイルランド紛争が始まった 1960 年代後半以降を、中心的に扱う。

北アイルランドの文学研究は、その背景を成す社会・歴史研究と密接な関係にあり、たとえ一人の詩人に限った研究であろうとも、広い意味で、北アイルランド地域研究の相を帯びるだろう。昨今、文学研究はますます細分化する傾向にあるが、北アイルランドの文学研究においては、細分化はかえって本質を見失う結果になりかねない。文学研究ないし文化研究は歴史、社会研究と不可分であり、学際的な研究が求められる。

題目を「詩的想像力」とするのは、研究対象を文学作品に限定せず、北アイルランド住民の民衆的想像力をも広く視野に入れるからである。具体的には詩作品以外に、プロテスタントとカトリックという宗派ごとに分断されたコミュニティに見られるミュージカル（政治的主張をもつ壁絵）やグラフィティ（政治的主張をもつ言葉）、あるいは各コミュニティで歌われるソング（伝承歌など）なども研究対象とする。

本研究は詩人という特別な才能が生み出した創造的産物だけではなく、コミュニティに根づいたミュージカル・アーティストの描くミュージカル、作者不詳の伝承歌など、名もなき民衆が生み出した産物をも対象とし、北アイルランドという地域に展開される想像力の諸相を総合的に扱う。

## 2. 研究の目的

研究の目的は、複数の民族・国家・宗教・文化が絡み合う北アイルランド社会で生み出される詩、歌われているソング、当社会の政治的風景の一部と化しているミュージカルやグラフィティを、広範囲に、そして詳細に辿ることによって、人間の想像力が紛争や対立をいかに乗り越えられるかを探求することである。

すなわち、紛争社会の構造と現状を分析するとともに、北アイルランドの詩的想像力の諸相を通し、紛争という過酷な現実のなかでの芸術家の役割、そして人間の想像力が生みだしたもの（詩、ソング、ミュージカルなど）の社会的影響力、具体的には和平プロセスへの寄与について探求することである。とくに詩的想像力にこだわるのは、創造的作品は、政治的な解決とは違って、宗派を越え、人びとに精神的な共有地をもたらす可能性が大きいからである。

本研究は北アイルランドに特化するが、当地が抱えるポスト植民地の問題、民族・宗教・帰属意識の違いによって生じた対立などの問題は、北アイルランドという一地域を越えて、他の紛争地域の研究にも手がかりを与えるだろう。

## 3. 研究の方法

本研究の具体的な成果目標は二つある。

一つは『北アイルランドの想像力』と題し

た一冊の書を刊行することである。具体的には、サミュエル・ファーガソン（1810-86）、ジョン・ヒューイト（1906-87）、ルイ・マクニース（1907-63）、ジョン・モンタギュー（1929-）、マイケル・ロングリー（1939-）、シェイマス・ディーン（1940-）、デレク・マホン（1941-）、キアラン・カーソン（1948-）、トム・ポーリン（1949-）、メーヴ・マガキアン（1950-）など、北アイルランドないしはアルスターの代表的詩人の詩を読解し、論文を執筆することである。

もう一つは、ミューラルを長期間にわたって、調査・研究し、宗派ごとに分断された人びとの歴史観をもとに解説し、さらにその変遷を記録することである。

以上の目標を達成するには大別して二種類の方法がある。詩人論については北アイルランド出身の詩人の作品や音声資料を丹念に読解・研究するという内なる作業、そして、それと並行して、現地に出かけ、作品の文化的、歴史的、社会的背景を調査する外なる作業である。詩人研究には、詩というテキスト、北アイルランドというコンテキストの二種のテキストの調査研究が必要となるだろう。

つぎにミューラルの調査である。これについては、ベルファストやデリーだけでなく郊外や田舎など大小のコミュニティに見られるミューラルやグラフィティを記録・撮影する。ミューラルは社会状況に応じて変化するので（書き換えられることもあれば、消される場合もある）、現地調査は頻繁に行う必要がある。また、コミュニティ内におけるミューラルのメッセージ性を検証するためには、ミューラルを描くアーティストはもちろんのこと、地域住民とのインタビューが必要となる。

#### 4. 研究成果

本研究の目的は、上記のように、詩人の詩作品の研究と、ミューラルやグラフィティの現地調査を踏まえた研究である。

前者については取り上げるべき詩人のうち（全体では10人程度の詩人）半分くらいの詩人の研究を行ってきた。本研究期間において、サミュエル・ファーガソンとルイ・マクニースについて論考を残した。この二編は今後の研究の足掛かりとなる。というのは、両詩人とも、現在の北アイルランド詩人のうち、プロテスタント系の詩人たちの先達としてみなされている詩人であるからである。両論はこれから取り組む予定であるマイケル・ロングリー、デレク・マホン研究の布石となる。

後者については、その成果の一部として、平成23年3月に『北アイルランドとミューラル』（水声社）を出版した。

また、北アイルランド紛争の現在を検証する目的でインターフェイスについて論考を書いた。インターフェイスとはとくにベルファストやデリーなどの都市部で、プロテスタントとカトリックそれぞれのコミュニティが接する境界地域である。1998年のベルファスト合意以来、北アイルランド紛争は平和に向かいつつあるが、北アイルランドは依然として分断社会であり、両地区を分断するピース・ウォールの数は増え、インターフェイスでの暴力や暴動の数は増えているのが現状である。本論考は2011年、本務校から在外研究の機会を得て、ベルファストで一年間、現地調査をした成果の一環である。

上記の研究と並行して、研究期間全体にわたって、北アイルランドを代表する詩人兼文芸評論家のシェイマス・ディーン著『アイルランド文学小史』翻訳に取り組み、期間中に出版にこぎつけた。本書はわが国の今後のアイルランド研究に益することが大きいと自

負する。

また、本研究期間においては北アイルランド詩人のほかに、T. S. エリオットとダグラス・ダンについて論考を書いた。エリオットは現代詩人なら影響を受けない詩人はないほど大きい詩人であり、エリオット研究は北アイルランド詩人研究にとっても、必要である。たとえば、シェイマス・ヒーニーの評論は、エリオットの評論を読んでいないと理解できない部分が多い。一方、ダグラス・ダンであるが、ダンはスコットランドの詩人であり、対イングランド、あるいは英国内部における関係など、北アイルランド詩人研究の参考になる点は大きい。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

- ①佐藤亨、「ルイ・マクニースとキャリックファーフガス——北アイルランド詩人と故郷」、『エール』32巻、86-102、2013年、査読有。
- ②佐藤亨、「北アイルランドのインターフェイス——ピース・ウォールの現状」、『青山経営論集』46巻別巻、32-46、2011年、査読無。
- ③佐藤亨、「変貌するミューラル——北アイルランド和平進展の中で」、『青山経営論集』第45巻、別冊1、39-54、2010年、査読無。
- ④佐藤亨、「ボードレール・パリ・エリオット——『遊歩者』の系譜」、*T. S. Eliot Review*, 20巻、34-47、2009年、査読有。
- ⑤佐藤亨、「歌のアイルランド化について——‘Shenandoah’を手がかりに」、『エール』28巻、18-31、2008年、査読有。
- ⑥佐藤亨、「アセンダンシーのジレンマ——

サミュエル・ファーガソンの『アイルランドの一プロテスタントの頭と心の対話』(1833)をめぐって」、『英文学思潮』第81巻、49-63、2008年、査読無。

[学会発表] (計5件)

- ①佐藤亨、「シェイマス・ディーンの『アイルランド文学小史』を訳す」、日本アイルランド協会、2012年10月20日、立教大学。
- ②佐藤亨、「ルイ・マクニースの詩について」、日本アイルランド協会、2012年7月28日、立教大学。
- ③佐藤亨、「北アイルランド紛争のいま——インターフェイスの問題」、日本アイルランド協会、2012年6月16日、東洋大学。
- ④佐藤亨、「シェイマス・ヒーニーの想像力——『テーベの埋葬』を中心に」、アイリッシュ・アメリカン研究会、2009年12月20日、国士舘大学。
- ⑤佐藤亨、「Two Versions of *Antigone* in Northern Ireland: Seamus Heaney's *The Burial at Thebes* [2004] and Tom Paulin's *The Riot Act* [1984]」、International Association for the Study of Irish Literature、2008年7月31日、ポルト大学、ポルトガル。

[図書] (計5件)

- ①シェイマス・ディーンの『アイルランド文学小史』(翻訳、北山克彦氏と共訳)総頁408、国文社、2012年。
- ②佐藤亨、『北アイルランドとミューラル』水声社、1-136、2011年。
- ③佐藤亨、「ダグラス・ダン 根無し草のコモポリタン——スコットランド現代詩人の詩と思想」(共著、『スコットランド文学その流れと本質』所収)、558-578、開文社、2011年。

④佐藤亨、「エリオットとヨーロッパ——荒地からの出発」（共著、『モダンにしてアンチモダン——T. S. エリオットの肖像』に所収）、255 - 272、研究社、2010年。

⑤佐藤亨、「シェイマス・ヒーニーの『アンティゴネー』——『テーベの埋葬』をめぐって」（共著、『ギリシア劇と能の再生——声と身体の諸相』所収）、135 - 176、水声社、2009年。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

佐藤亨 (SATO TORU)

青山学院大学経営学部教授

研究者番号：40245337

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：